

2020年8月東大本番レベル模試 地理 採点基準

1 単答記述問題

誤字，脱字，漢字間違いは0点。

2 論述問題

- ① 「設問別加点基準」に基づき加点する。また，その他各問題の主旨に適した解答にも適宜加点する。ただし，満点を超える得点は与えない。
- ② 以下の「共通減点基準」に基づき減点する。

3 共通減点基準

- ① 加点要素における誤字・脱字および漢字の間違いは1点減点。
- ② 下線の付け忘れは1問につき1点減点。
- ③ 指定用語不使用は，指定用語1つにつき1点減点。
(解答中のどこかで使用していればよい。
加点ポイントの脱落による減点がある場合は，それ以上の減点は不要。)
- ④ 字数オーバーは1点減点。

*減点しなくていい要素，その他の注意

- ① 地理用語に関して，漢字の新字体／旧字体や，スロヴェニア⇄スロベニア，パキスタン⇄パーキスタンといったカタカナ表記の通念の範囲内での異体に関しては減点はしない。
- ② 加点要素以外で誤った記述があった場合，その部分は0点だが，減点はしない。
- ③ 加点項目は内容的に整合性が取れていればよく，字句の順序や表現は必ずしも完全に一致していなくてもよい。
- ④ 文章が未完のものも減点しない。

4 採点記号について

- 1. <□□□□> 加点ポイント
- 2. □□□□× 事実に誤認あり
- 3. □□✓□□ 誤字あり／脱字あり

5 設問別加点基準

- 1) _____部分は必須キーワードであり、この表現がなければ当該加点ポイントにおける加点はしない。その他は同義であれば加点する。
- 2) ○○/△△ は「○○でも△△でも可」を意味する。
- 3) 「② (①の説明として)」は、加点ポイント①を正解していなくても、加点ポイント②に該当すれば加点する。
- 4) 「 A 」が「 B 」→1点 は、「 A 」と「 B 」の両方の要素があれば1点加点する。

第1問

設問A

(1) 各1点×3

a－ア b－エ c－イ

(2) 3点

周辺山岳の降水・融雪水が地下に浸透するため、乾燥する盆地の集落まで地下水路で導水し、または井戸から汲み上げて利用する。(2行)

【加点ポイント】

- ① (X地域の環境として) 乾燥地域である／砂漠が広がる／ステップ地域である
／乏水地域である →1点
- ② (水源として) 周辺山岳の降水や融雪水／テンシヤン山脈／クンルン山脈／パミール高原 →1点
- ③ (水利として) 地下水路／カンアルチン／カンアルジン／坎児井／カレーズ／井戸 →1点

(3) 2点

南水北調事業。南部の豊富な水資源を用水路で北部に供給する。(1行)

【加点ポイント】

- ① (事業の呼称) 南水北調 →1点
- ② (①の内容) 南部の水を北部に供給する／長江(漢江)の水を北部(北京周辺)に送る
／南部から北部への用水路を建設する →1点

(4) 4点 ※[指定語句]

間接的輸入 中南アフリカ 直接投資 南アメリカ

 4つ全て

下線付きで使用

中国は農業用水の間接的輸入を図っており、南アメリカの大豆畑など中国への輸出向け作物の耕地が拡大する一方、中国企業による中南アフリカなどの耕地の買収といった直接投資も進行している。(3行)

【加点ポイント】

- ① 南アメリカなどで中国輸出向け作物の耕地が拡大している
／南アメリカなどの耕地で中国向けの大豆などを大規模に栽培している →1点
- ② (①により) 中国は水(農業用水)の間接的輸入を行っている →1点
- ③ 中国は直接投資により世界の耕地を買収している
／中国企業が直接投資により国外で農作物を作っている
／直接投資により国外に中国の耕地を持つようとしている →1点
- ④ (③の具体例) 中南アフリカ／オーストラリア →1点

設問B

(1) 3点

暖房用の石炭燃焼が多く、降雨による沈降が少ない冬～春先に濃度が上がり、季節風により日本や朝鮮半島を含む広域に拡散する。(2行)

【加点ポイント】

- ① (季節変動の特徴) 冬(秋から冬／春先)に濃度が上がる／夏は濃度が下がる →1点
- ② (①の要因) 「暖房」と「降雨が少ない／乾燥」 →1点
- ③ (影響の拡大) 「季節風／西よりの風／大陸風」により「日本／朝鮮半島／東部」に広がる →1点

(2) 1点

自動車の排気ガス／排気ガス／自動車

(3) 4点 ※[指定語句]

再生可能エネルギー	送電網	転換	非在来型資源
-----------	-----	----	--------

 4つ全て

下線付きで使用

石炭以外のエネルギー源への転換を推進するが、天然ガスでは非在来型資源の採掘技術の遅れによる供給不足やコスト高が、再生可能エネルギーでは送電網整備の遅れによる電力ロスが課題である。(3行)

【加点ポイント】

- ① (現在のエネルギー源として) 石炭 →1点
- ② (エネルギー政策) エネルギー源の転換／クリーンエネルギーへの転換
／再生可能エネルギーへの転換／石炭の使用量削減 →1点

③ (②の課題)

- ・天然ガスは輸入が多い(自給できない)／天然ガスの輸入はコストが高い
- ・非在来型資源は採掘技術が遅れている／非在来型資源は採掘のコストが高い
(※シェールガスの埋蔵量が多い)
- ・再生可能エネルギー(水力・太陽光・風力など)は送電網整備が遅れている
／再生可能エネルギーは電力ロスが大きい
- ・エネルギー需要が急増しクリーンエネルギーだけでは追いつかない

1つ1点
2点まで

第2問

設問A

(1) 1点 (完答)

イー北中アメリカ ウーヨーロッパ エー南アメリカ

(2) 3点

新興国における食肉生産拡大に応じた飼料としての需要や、地球温暖化対策を目的としたバイオ燃料の原料としての需要が増えた。(2行)

【加点ポイント】(※3点を超えない)

①「飼料」の需要 と「食肉需要の増加」という背景 →2点

②「バイオ燃料/バイオエタノール/バイオマセタノール」と「地球温暖化」 →2点

} ↓
合わせて3点まで

(3) 2点 ※ [指定語句] 生産性 販売 2つ全て 下線付きで使用

アでは自給目的で労働集約的に生産され、土地生産性が高い。ウでは主に販売目的で資本集約的に生産され、労働生産性が高い。(2行)

【加点ポイント】

①(アについて)「自給目的/国内消費のため」で「土地生産性が高い/労働生産性が低い」 →1点

②(ウについて)「販売目的」で「労働生産性が高い」 →1点

(4) 4点

緑の革命による単位収量向上で自給率を高めたアに対し、オでは栽培技術の普及や灌漑の整備が遅れて単位収量は低いままで、人口増加による需要拡大に生産が追いつかず、輸入依存度が高まった。(3行)

【加点ポイント】

①(アの理由)単位収量が向上した/高収量品種(IR8)を導入した →1点

②(①について)緑の革命 →1点

③(オの理由)栽培技術が低いままである/稲作の歴史が浅い/灌漑の整備の遅れ/資金不足 →1点

④(オの理由)人口増加による需要拡大に生産が追いつかない/著しい人口増加/人口爆発 →1点

(5) 2点

エは熱帯の酸性土壌、オセアニアは乾燥帯の面積比が大きい。(1行)

【加点ポイント】

①(エについて)熱帯の酸性土壌/ラトソルが分布/土壌が肥沃でない/やせた土地 →1点

②(オセアニアについて)乾燥帯の面積比が大きい/降水量が少ない/砂漠が広がる →1点

設問B

(1) 1点 (完答)

カーノルウェー キーペルー クーインドネシア ケー中国

※(2)(3)共通 語群 (各問 2つ以上 下線付きで使用)

栄養	えび	海水温	経済水域	こい
自給的	生態系	資源管理	まぐろ	湧昇流

(2) 3点 ※ 上記語群から 2つ以上 下線付きで使用する (1つ以下の使用は -1点)

カはフィヨルドでの養殖と資源管理を行った漁業で生産が安定し、キは湧昇流の生ずる海域の漁獲量に海水温変動の影響が大きい。(2行)

【加点ポイント】

★(1)で、「カーノルウェー」を正解していることが①の加点の前提

- ① (カは) 養殖が盛んである／さけなどの養殖をしている／栽培漁業が盛んである
 ／資源管理を行った漁業である／乱獲を避けている
 ／大陸棚やバンクが広がり漁獲が安定している →1点

★(1)で、「キーペルー」を正解していることが②③の加点の前提

- ② (キは) 漁獲が中心である／養殖が盛んでない／アンチョビーの漁獲が中心
 ／湧昇流の生じる海域での漁獲である →1点
- ③ (キは) 海水温変動の影響が大きい／エルニーニョ現象により湧昇流が減じる年は漁獲が少ない
 ／海水温が高いときは魚が獲れない／エルニーニョ現象により漁獲量が変動する →1点

(3) 4点 ※ 上記語群から 2つ以上 下線付きで使用する (1つ以下の使用は -1点)

輸出目的のえび養殖が増加するクでは施設造成に伴うマングローブ林伐採が生態系を破壊し、経済成長に伴ってこいなどの自給的生産が増加するケでは河川や湖沼の富栄養化や汚染が進行している。(3行)

【加点ポイント】

★(1)で、「クーインドネシア」を正解していることが①②の加点の前提

- ① (クの養殖業) 「輸出目的／日本などへ輸出」のための「えびの養殖」 →1点
- ② (①の自然環境問題) マングローブ林の伐採／魚付き林の減少／生態系の破壊
 ／海岸侵食／津波・高潮への脆弱性を高める／海洋汚染 →1点

★(1)で、「ケー中国」を正解していることが③④の加点の前提

- ③ (クの養殖業) 「こいの養殖／淡水魚の養殖」が「自給的生産の増加／経済成長で需要増加」
 (ふな・草魚・ハクレン・コクレンなど) →1点
- ④ (③の自然環境問題) 河川 (湖沼) の富栄養化
 ／河川 (湖沼) の水質汚染 →1点

第3問

設問A

(1) 1点 朝鮮戦争

(2) 4点

阪神地方は、第一次石油危機後の原燃料費の高騰で、鉄鋼、造船等の重厚長大型産業が衰退した。一方、南東北は、安価な土地と労働力、高速道路や空港の建設を背景に、先端技術産業が立地した。(3行)

【加点ポイント】

① (阪神地方について) 重厚長大型産業が衰退/鉄鋼業や造船業が衰退/重工業が衰退 →1点

② (①の要因) 「第一次石油危機/石油危機/オイルショック」で「原油が高騰/原燃料が高騰」

→1点

③ (南東北について) 先端技術産業が立地/半導体(IC/ハイテク製品)の生産 →1点

④ (③の要因) 「安価な土地/安価な労働力」と「高速道路の整備/空港の建設」 →1点

(3) 3点

貿易摩擦や円高を背景に、欧米での現地生産や発展途上国への工場移転が進んだ上、サービス経済化の進行で産業構造が変化した。(2行)

【加点ポイント】

① 海外への工場移転/製造業の海外進出/海外での現地生産の増加 →1点

② (①の背景) ・貿易摩擦

・円高

・国内人件費の高騰/人件費削減のため

・産業構造の変化/サービス経済化/第3次産業の拡大

1つ1点

2点まで

設問B

(1) 1点 (完答)

ア-A イ-B ウ-C

(2) 4点 ※ [指定語句] 駅周辺 幹線道路 モータリゼーション 3つ全て 下線付きで使用
モータリゼーションを背景に、都市郊外の新しい幹線道路沿いに飲食料品を売る大型スーパーが増えたが、駅周辺の古い商店街等では、広い駐車場を持たない小型の飲食料品店が多数廃業したため。(3行)

【加点ポイント】

★(1)で、「ア-A」を正解していることが加点の前提

① 駅周辺等で商店が多数廃業した →1点

② (①の背景) モータリゼーションの進行 →1点

③ (①の背景) 郊外の幹線道路沿いに大型スーパーが進出 →1点

④ (①の背景) ①は広い駐車場を持たない/③は広い駐車場を持つ →1点

設問C

(1) 1点 (完答)

X－東京都 Y－栃木県 Z－埼玉県 (「都・県」の欠落は許容)

(2) 3点

バブル崩壊で地価が高騰から下落に転じたことで都心の再開発が進み、再高級化した街に富裕層が流入して常住人口が増えたため。(2行)

【加点ポイント】

★(1)で、「X－東京都」を正解していることが加点の前提

- ① 都心の人口(夜間人口/常住人口)が増えた/人口の都心回帰が起こった
/都心に富裕層が流入した/ジェントリフィケーションが起こった →1点
- ② (①の背景) 再開発が進んだ/高層マンションなどが多数建設された/住宅建設が進んだ →1点
- ③ (②の背景) 「バブル崩壊/バブル経済の崩壊」による「地価下落」 →1点

(3) 3点

新興住宅地への入居が始まった当時の働き盛り世代が定年退職の時期を迎え、東京への遠距離通勤が減って昼間人口が増えたため。(2行)

【加点ポイント】

★(1)で、「Z－埼玉県」を正解していることが加点の前提

- ① 東京への通勤者が減った →1点
- ② (①の背景) 多くの人が定年退職を迎えた →1点
- ③ (②について) 新興住宅地が多く建設された頃に入居した/1960年以降の住宅建設で移住した
/ドーナツ化現象で郊外に移住した/働き盛りの時期に埼玉に移住した →1点